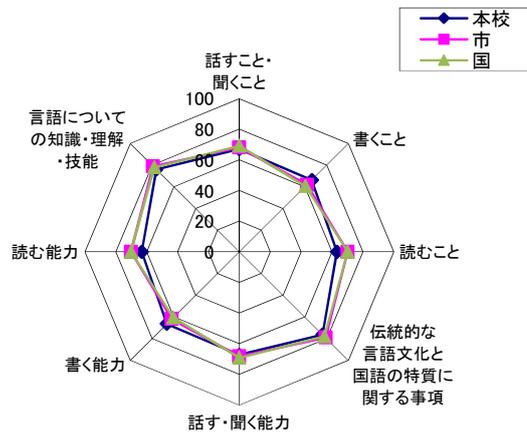


宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

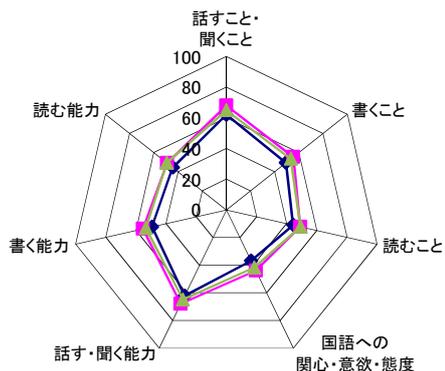
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	67.2	68.2	69.2
	書くこと	66.4	62.0	60.6
	読むこと	63.2	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.2	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	67.2	68.2	69.2
	書く能力	66.4	62.0	60.6
	読む能力	63.2	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	76.2	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.1	68.0	64.9
	書くこと	49.3	55.3	53.4
	読むこと	44.3	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.8	43.9	41.7
	話す・聞く能力	62.1	68.0	64.9
	書く能力	49.3	55.3	53.4
	読む能力	44.3	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>国語Aでは平均正答率が市平均を上回ったが、国語Bでは下回った。</p> <p>○互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うという問題では、県平均を0.6ポイント上回った。</p> <p>●話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモの良さをとらえる問題では、県平均を4.6ポイント下回った。</p>	<p>・グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて話し合い、より一層豊かな相互交流を図ることができるようにする。互いの考えが相違する場合には、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかということに着目して話し合いを進めることができるようにする。</p>
書くこと	<p>国語Aの平均正答率は4.6ポイント平均を上回った。国語Bでは、4.1ポイント市平均を下回った。</p> <p>○お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する問題では、県平均を7.3ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くという問題では、県平均を10.9ポイント下回った。</p>	<p>・依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書くときに、書く相手や目的を明確にしなが、書く必要のある事柄を選んだり構成したりすることができるように指導する。合わせて表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式などについて指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は国語Aは6.7ポイント、Bは4.4ポイントともに市平均を下回った。</p> <p>●俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題では、県平均を9.9ポイント下回った。</p> <p>●学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する問題では、県平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて、中心となる語や文を捉え、必要な情報を見つけて読む能力を育成する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は市平均を2.1ポイント下回った。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題(参加たいしょう)では、県平均を8.4ポイント上回った。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題(4年生のきぼう者)では、県平均を13.6ポイント下回った。</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、県平均を上回った。</p>	<p>・漢字を習得させるために、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で、漢字のもつ意味を考えさせながら、実際に文や文章の中で正しく使うことや、同音異義語に注意して使うことができるように指導する。また、語彙を拡充するために、国語科の学習だけでなく、他教科等の学習活動の中でも、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けさせる。</p>